

平成 25 年 12 月 26 日

「京」の利用について

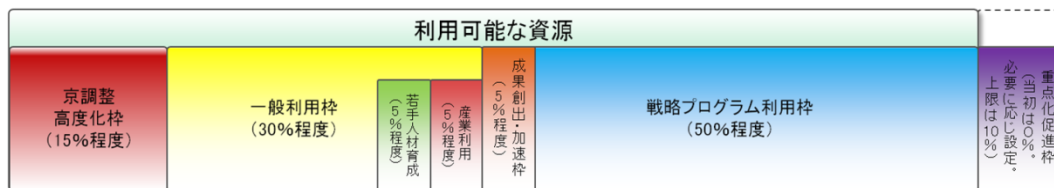
文部科学省研究振興局
参事官(情報担当)付
計算科学技術推進室

平成 26 年度においては、産業利用の拡大に対する要望、「京」の利用状況及び我が国の厳しい財政状況を考慮して下記の変更を行う。

1. 産業利用枠の拡大

- ・ H24 年度に比べ、H26 年度は約 1.6 倍の応募(課題数比)。
- ・ 産業界における京の利用促進を図るため、産業利用枠を拡大する。
(5%程度→8%程度を想定)
- ・ 産業利用枠の拡大に伴い、「成果創出・加速枠」を縮小する。
(5%程度→2%程度を想定)

(参考)現在の「京」の利用枠



2. 産業利用課題(個別)における随時募集の導入

- ・ 拡大した産業利用枠のうち、2%程度については、新たに随時募集を導入する産業利用課題(個別)用とする。

3. 配分資源量の見直し

- ・ 混雑緩和対策の一環として、ジョブ充填率の状況を考慮し、現在の提供可能資源量の 85%とする。

現在の提供可能資源量: 82,944 ノード × 365 日 × 24 時間 × 95%*

※計画停止分、保守時間等を控除している

4. 利用料金の見直し

- ・ 産業利用課題(個別)については、適切な受益者負担の観点から、運営費回収方式による有償利用としている。
- ・ 現行単価(12.68 円/ノード・時間)は、H24 年度の運営経費をもとに算定していることから、H26 年度運営経費をベースとした料金改定を実施する。
- ・ 新単価については、予算が確定次第、RISTよりH26 年度の課題応募者へ通知する。